

教育経済建設常任委員会行政視察報告書

黒川 貫 男

○福井県坂井市・

学力向上に向けた取り組み及び教育環境の整備について

【所 見】

坂井駅から坂井市立丸岡南中学校を訪問しましたが、第一印象は広大な田園風景の中にガラス張りの近代的な建物が現れ、「え！これが学校」という程の素晴らしい学校でした。

平成15年6月に新中学校設計プロポーザル審査が行われ、43社が参加、その中で5社に絞られ、設計社が決められた大きな事業であったと改めて感じ、学校の素晴らしさに感心をいたしました。学校の外見だけではなく、校内もガラス張りが主体で、広々とオープンスペースをうまく利用し、スクエア制と名付けた異学年縦割り集団制を取り入れ、生徒の自主性や自己有用感を高めるなど、生徒にとって魅力ある学校づくりに取り組んでいました。

また、その素晴らしい学校としての室内ロケーションを活かし、教科により教室を移動して行われる授業を取り入れ、また学年別の壁を取り払い異学年が同じフロアで学び、自然な交流が図られるなど独特な環境でした。

また学校全体の取り組みとして、「メディアスパイラル」は図書館を起点として、多目的ホールやランチルームがらせん状につながり、特にランチルームにおける給食は食物の選択制を取り入れ、全生徒や教職員全員が一斉に給食をとるなど、明るい雰囲気であると伺いました。

そして坂井市の学力向上に向けた取り組みでは、全国学力テストを初め福井県が行う学力調査、坂井市が独自に行う学力テスト及び確認テストなどを実施し、全国学力テストの平成29年度は全国平均を大きく上回っていたとのことです。

当足利市においても全国学力テストなど今以上に重視し、その内容をしっかりと分析し、足利市の小中学生の学力向上に結び付けなければなりません。

○石川県小松市

企業立地支援制度について

【所 見】

小松市の工業といえば、即座に「小松製作所」が連想されるような工業力の強いまちであり、飛行場の立地や北陸新幹線の小松駅開業を見据えて、産業振興や

雇用拡大を目的とした産業団地の造成や企業誘致に取り組んでいました。中でも特筆できる「企業立地助成金」は、最大10億円、しかも石川県の制度との併用も可能で、最大50億円と大胆に取り組んでいると同時に、「中小企業立地促進資金融資制度」や「低利融資」などの優遇制度を設け、企業支援施策により企業の立地をサポートしているとのことでした。

そして今後の産業団地の造成は、どの地方都市においても国の農業政策の規制が大きな問題となり、進展の速度がどうしても遅いと嘆いておりました。

我が足利市も「あがた駅南産業団地」の開発を起爆剤とし、農業政策の規制が厳しい地域ですが地道に交渉を重ね更なる発展を期待したいと思います。